

取材で分かった意外と知らない「ツウな情報」を、お伝えします。

# コレ知ってたら又木名通

kuwana tsu!

## 八幡神社獅子舞こぼれ話

！お囃子には楽譜がない？

舞の中では、大太鼓が一つ、小太鼓が一つ、鼓が一つ、七ツ穴横笛が一つもしくは数個で演奏されています。なんとこの演奏はすべて口伝で伝承されており、楽譜は一切ないのだとか。長年伝わってきた演奏にも注目してご覧ください。

！ズシリと重い日本刀！

刀舞で使用されている太刀は、本物の刀剣が使用されていることをご存じですか。これは日本全国でも珍しいです。また、片手で持つのに結構な重量感があるため、扱うのは大変です。これを片手で持って立ち振る舞う獅子の姿は大変勇ましいですね！

！「さる」の飾りは何を表しているの？

花舞で飾られている「さる」は、三角の形をしているはんぺん（野菜を表す）、米俵、柿（果物を表す）、人の形をしているさるの4種のモチーフがあります。五穀豊穡を祈るのに大切なものを表していたのですね！

これらをつけた柳の木を持つのは、当日獅子舞を見に来た子どもたちだそうです。飾りを持って近で獅子を見たい子はぜひ来てくださいね！



イラスト 市民編集員 櫻井 暁子



さるの飾り

## 市長がふれる！

# 本物カ

No.21

八幡神社  
獅子舞

今月の特集は八幡神社獅子舞です。

八幡神社獅子舞の由来はイノシシ退治。元禄時代、畑を荒らし、人たちに危害を加えたイノシシを退治し、それを弔うために始められたと言われています。元禄12年（1699年）に奉納された獅子頭2頭と天狗面2面、太刀1刀を使って、300年にわたり、五穀豊穡や無病息災を祈願した獅子舞が行われています。

私も何度もこの八幡神社獅子舞を見ていますが、いつもドキドキするのは「刀舞」の場面。獅子舞が本物の太刀を持ち、天狗の面をつけた小さな子どもと一緒に、太鼓や横笛の囃子にあわせて舞う姿を、会場のみんなが固唾をのんで見守ります。

この八幡神社獅子舞のすばらしいところは、お祭りを残すために、関わる地域を拡大されたということです。もともとは北島地区の人たちが中心になって「北島獅子舞」として実施されてきましたが、この伝統ある獅子舞を続けるために「八幡神社獅子舞保存会」が発足し、北島地区だけでなく西外面地区に輪を広げ、これまで以上に多くの人が参加できるお祭りとしたの

です。今やどこのお祭りでも担い手の減少という課題に直面していますが、この取り組みはそう簡単にはできません。この課題に真正面から向き合っており、取り組んできた八幡神社獅子舞関係者の皆さんには頭が下がります。今年（2022年）の開催は9月16日（土）と17日（日）。伝統を守り抜く関係者の強い意志を感じつつ、ドキドキしながらぜひご覧ください。



八幡神社獅子舞の獅子



平成28年3月に長島の八幡神社獅子舞が、改めて市指定無形民俗文化財に指定されました。

